



思いやりボックスの中身を確認する児童たち=大津市の下阪本小で

学校の備蓄品 岩手へ

大津・下阪本小 ラジオなど手紙添え

学校での備蓄品を岩手半島地震の被災地で活用してもらおうと大津市の下阪本小学校が、石川県珠洲市の大津小学校に手回しラジオなどの入った「思いやりボックスタクス」を送った。能登への思いを込めた手紙とともに被災地に届ける。

送ったのは、おもつやカイロ、救急セットなどが入った4箱。ボックスタクスは防災

学習に力を入れていた下阪本小の2022年度の6年生が、災害時に避難所となる学校での活用を目的に制作。有事に備えて校長室で保管していた。

能登半島地震の被害を知った5、6年生の児童会執行部が送付を提案。避難所となっていた珠洲市内の小学校に教員が電話をかけ、直小に送ることになつ

た。
26日に下阪本小であつたセレモニーには執行部の9人が参加。直小に向けたビデオレター撮影や、ボックスの検品作業をした。5年の橋蒼志さん(10)は「被災地の大変そうな様子を見て、何かできることがないかなと思っていた」と話す。(12)も「ボックスには役に立ってほしいという思いを込めた」と語った。6年の水上咲彩さん(12)は「下阪本小の思いが届いて励みになつてほしい」と願つた。
(和泉萌花)



色彩豊かな作品が並ぶ会場=いずれも甲賀市の一つか市民ホールで